

令和元年度(2019年度) 北海道産業廃棄物処理状況調査結果概要

1 発生及び処理状況

令和元年度1年間の道内の産業廃棄物量は、図1に示すように発生量は47,676.6千トンとなっており、このうち有価物の1,031.1千トンを除いた46,645.5千トンが廃棄物として排出されている。

排出された46,645.5千トンのうち、再生利用された量が25,057.9千トン(排出量の54%)、減量化された量が20,665.7千トン(同44%)、最終処分された量が920.0千トン(同2%)、自己保管・その他等量が1.9千トン(同0%)となっている。

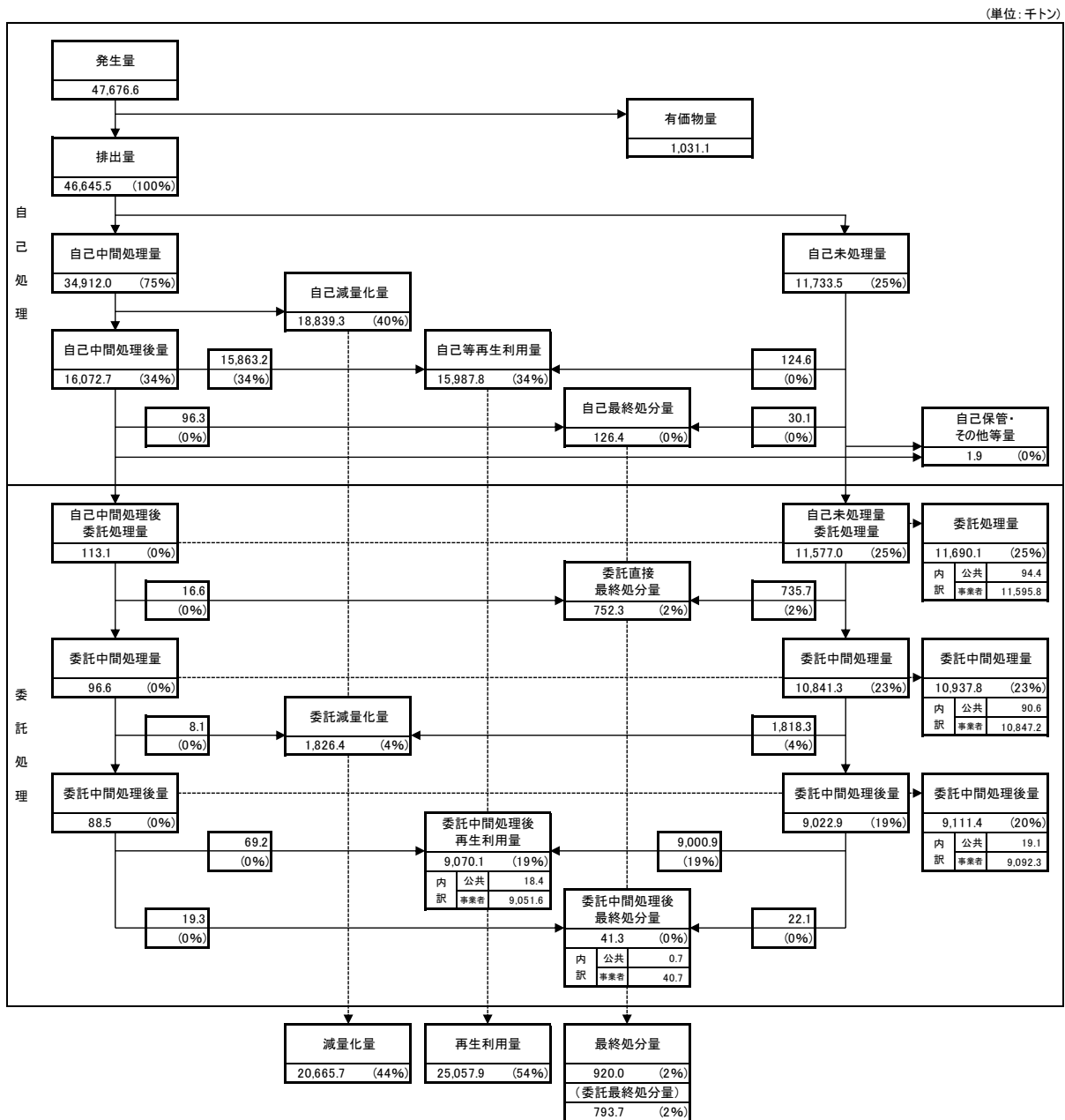
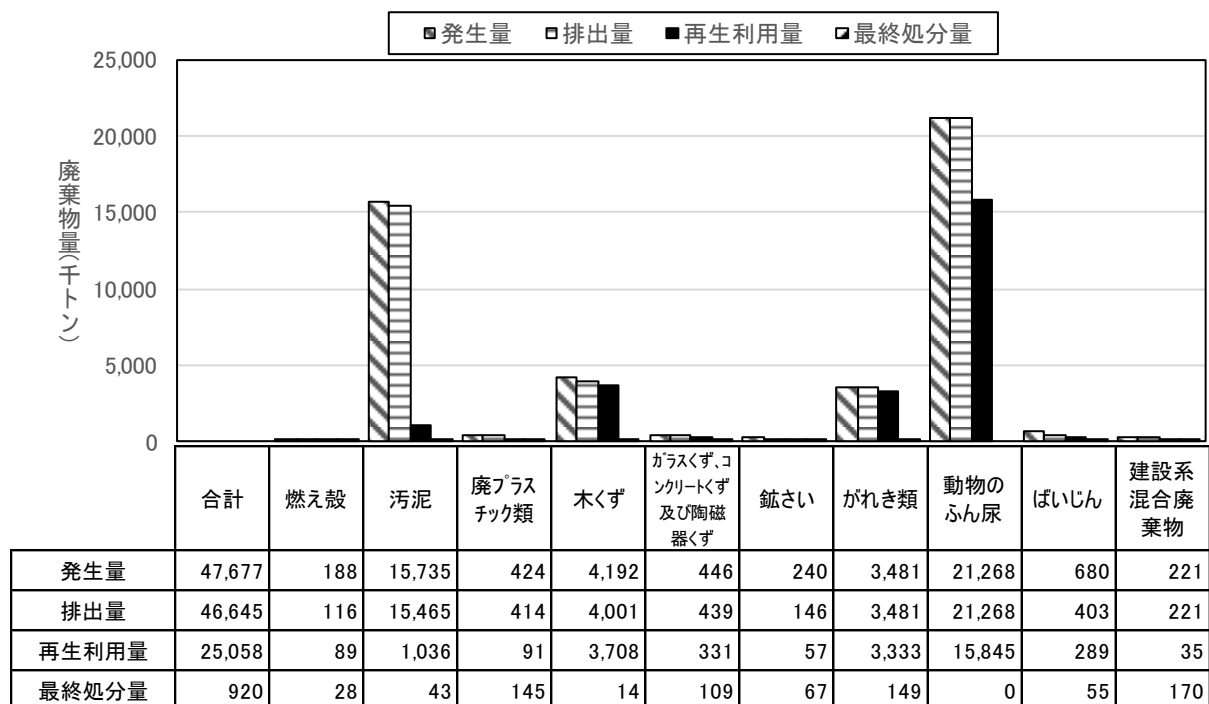


図1 産業廃棄物の発生及び処理状況

2 廃棄物種類別の結果概要

- ・廃棄物種類別の発生及び処理状況は、図2-1～図2-5に示すとおりである。
- ・発生量(47,677千トン)の内訳をみると、
 - ①動物のふん尿 21,268千トン(全発生量の45%)
 - ②汚泥 15,735千トン(同 33%)
 - ③木くず 4,192千トン(同 9%)の順となっている。
- ・排出量(46,645千トン)の内訳をみると、
 - ①動物のふん尿 21,268千トン(全排出量の46%)
 - ②汚泥 15,465千トン(同 33%)
 - ③木くず 4,001千トン(同 9%)の順となっている。
- ・再生利用量(25,058千トン)の内訳をみると、
 - ①動物のふん尿 15,845千トン(全再生利用量の 63%)
 - ②木くず 3,708千トン(同 15%)
 - ③がれき類 3,333千トン(同 13%)の順となっている。
- ・最終処分量(920千トン)の内訳をみると、
 - ①建設系混合廃棄物 170千トン(全最終処分量の 18%)
 - ②がれき類 149千トン(同 16%)
 - ③廃プラスチック類 145千トン(同 16%)



注：発生量の多い上位10種類の産業廃棄物について示す。

図 2-1 産業廃棄物種類別の発生及び処理量

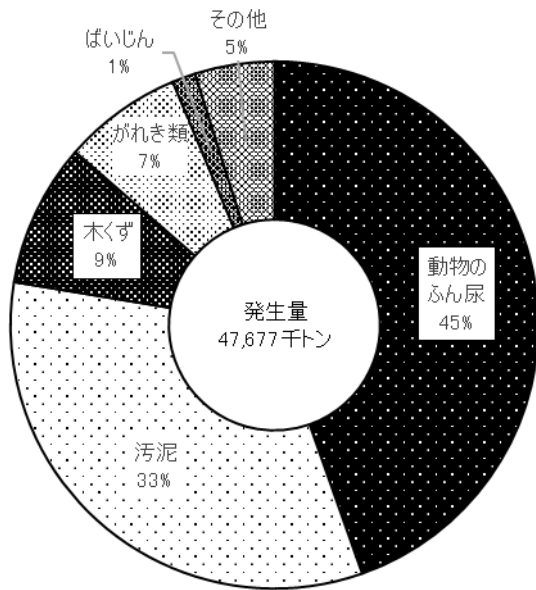


図 2-2 廃棄物種類別発生量の割合

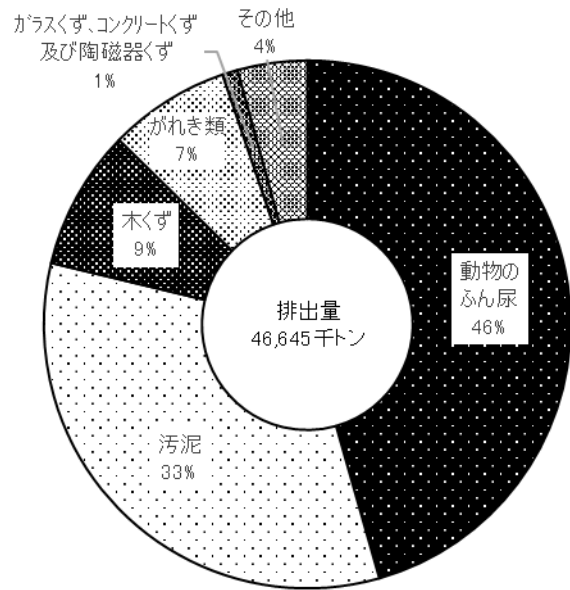


図 2-3 廃棄物種類別排出量の割合

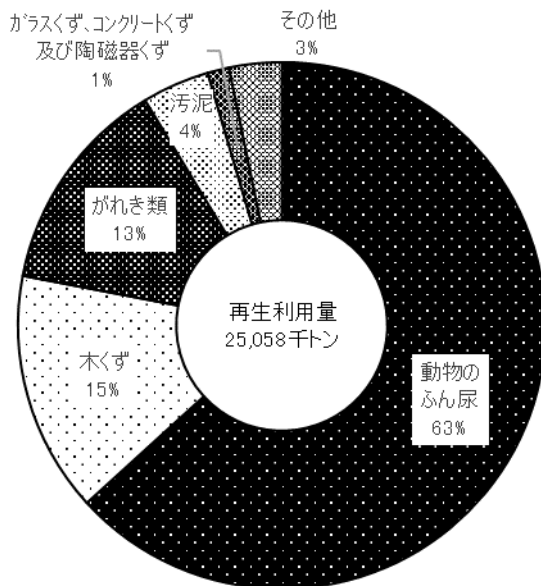


図 2-4 廃棄物種類別再生利用量の割合

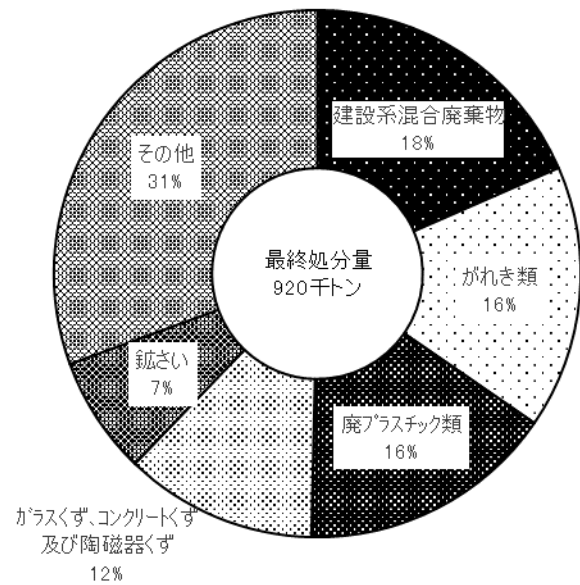
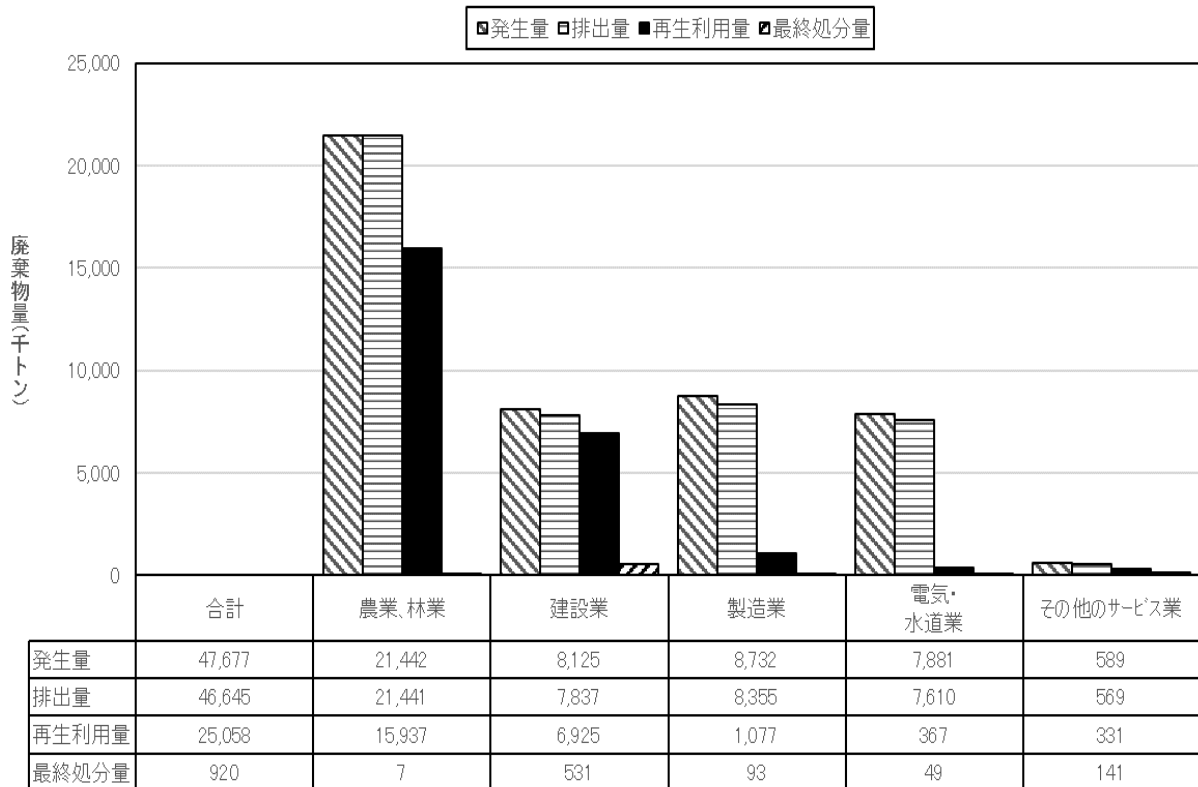


図 2-5 廃棄物種類別最終処分量の割合

注) 端数処理のため、割合 (%) の合計が100%にならない場合がある。

3 業種別の結果概要

- ・業種別の発生及び処理は、図3-1～図3-5に示すとおりである。
- ・発生量(47,677千トン)の内訳を業種別にみると、
 - ①農業、林業 21,442千トン (全発生量の45%)
 - ②製造業 8,732千トン (同 18%)
 - ③建設業 8,125千トン (同 17%) の順となっている。
- ・排出量(46,645千トン)の内訳をみると、
 - ①農業、林業 21,441千トン (全排出量の46%)
 - ②製造業 8,355千トン (同 18%)
 - ③建設業 7,837千トン (同 17%) の順となっている。
- ・再生利用量(25,058千トン)の内訳をみると、
 - ①農業、漁業 15,937千トン (全再生利用量の64%)
 - ②建設業 6,925千トン (同 28%)
 - ③製造業 1,077千トン (同 4%) の順となっている。
- ・最終処分量(920千トン)の内訳をみると、
 - ①建設業 531千トン (全最終処分量の58%)
 - ②サービス業(他に分類されないもの) 141千トン (同 15%)
 - ③製造業 93千トン (同 10%) の順となっている。



注:発生量の多い上位5種類の業種について示す。

図 3-1 業種別の発生及び処理量

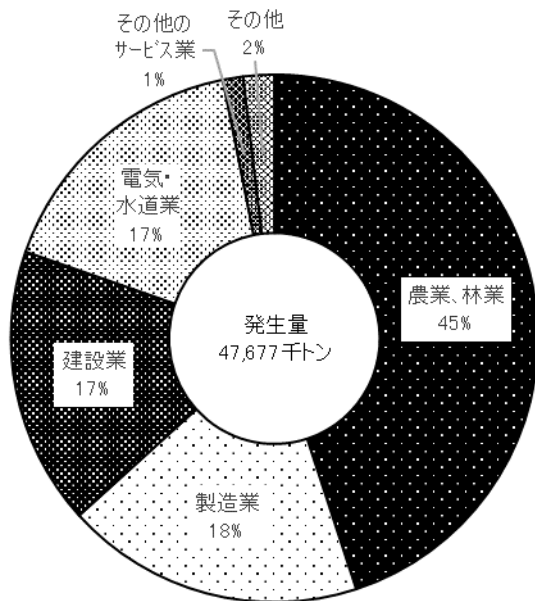


図 3-2 業種別発生量の割合

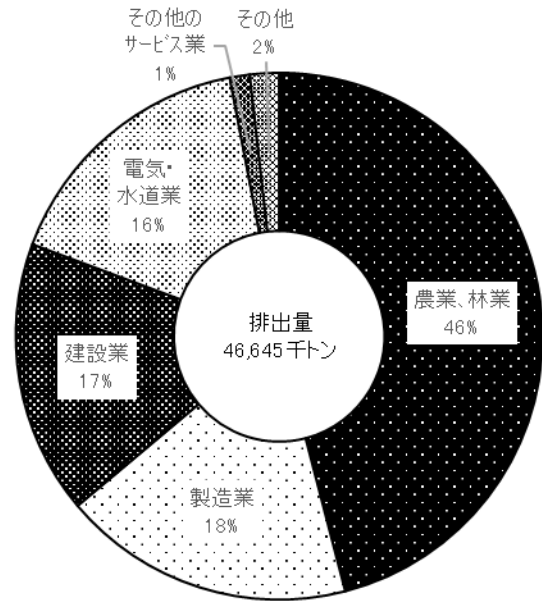


図 3-3 業種別排出量の割合

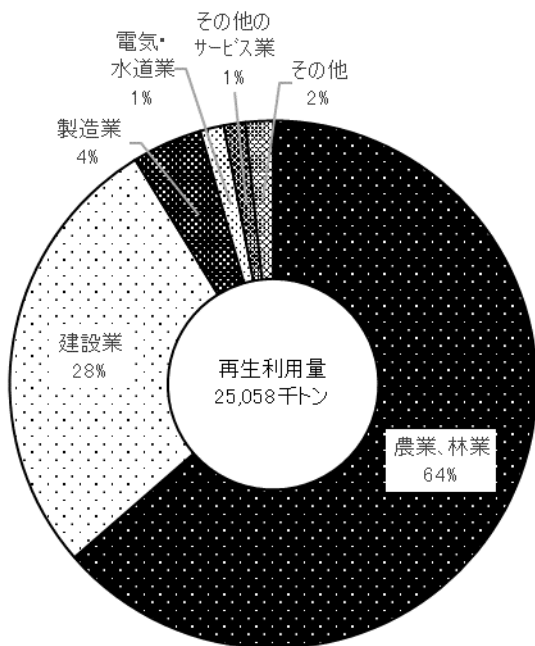


図 3-4 業種別再生利用量の割合

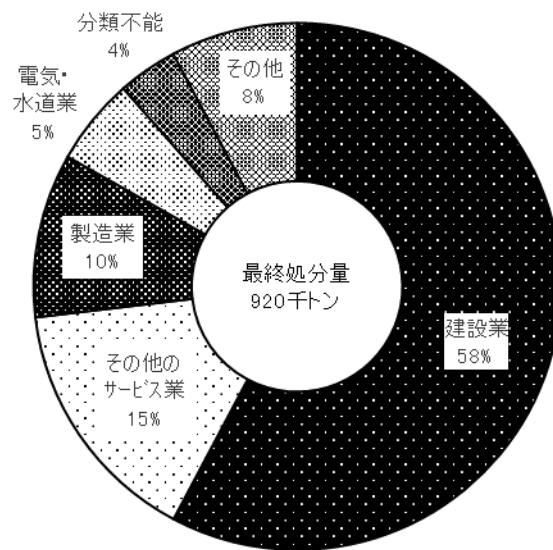


図 3-5 業種別最終処分量の割合

注) 端数処理のため、割合 (%) の合計が100%にならない場合がある。